

令和3年度

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業

管理機関 研究報告書

— 目次 —

実施イベント等名称	ページ
AI 活用入門講座	P. 1
AI 活用ワークショップ	P. 2
SciTech リサーチフォーラム	P. 3
WWL・SGH × 探究甲子園	P. 4-5
高校生国際交流の集い	P. 6
Working Folder の導入	P. 7
関西学院世界市民明石塾	P. 8-9

2022 年 3 月 31 日

管理機関：学校法人関西学院

1. プログラム名称

AI 活用入門講座

2. 提供開始

2019年10月6日（日）※一昨年度から継続して実施

3. 担当者（全員・役職名）

巳波 弘佳（関西学院大学 副学長・工学部教授）

西野 均（関西学院大学 共通教育センター 教授）

岡田 隆（関西学院大学 入学センター 次長）

永野 誠（関西学院大学 入学センター 高大連携課長）

篠坂 直隆（関西学院大学 入学センター 課長補佐）

中村 洸太（関西学院大学 入学センター 職員）

木田 貴之（株式会社リクルート まなび教育支援 Division 公教育支援推進部

公教育支援2グループ 自治体チーム）

4. 参加校数（本学WWL 拠点校・連携校）・講義視聴時間

総数 14校 総視聴人数 519名 総視聴時間 280時間（※2022年3月8日現在）

※昨年度ご参考：総数 14校 総視聴人数 470名 総視聴時間 263時間（※2021年3月1日現在）

5. プログラムの目的

関西学院大学 AI 活用人材育成プログラムを WWLC の高校生向けにアレンジメントし、オンラインコンテンツを制作した。制作したコンテンツは(株)リクルートの協力により Ed Tech を活用し、「WWL オンラインコンテンツ『AI 活用入門講座』」として 10 講座を開設し、拠点校・連携校 26 校に無料で配信する体制を構築した。このコンテンツを活用し、統合イノベーション戦略会議でも示されている、AI 活用に関する基礎知識を身に付け、各校で実施する課題研究に活用することを目指している。

6. プログラムの内容

第 1 回 AI と AI 活用人材

第 2 回 AI が活用される社会

第 3 回 AI のグローバルリーディングカンパニーの取り組み

第 4 回 AI を支える技術の概要

第 5 回 AI を支える技術（機械学習）

第 6 回 AI を支える技術（深層学習）

第 7 回 API（API とは、言語系 1）

第 8 回 API（言語系 2・音声系）

第 9 回 API（画像系）

第 10 回 AI 活用 for SDGs

7. プログラムの成果

拠点校・連携校の探究・課題研究活動において、SDGs 等の課題に AI を活用する観点を取り入れる際の参考資料として活用いただいている。拠点、連携校の複数の高等学校では、本講座を授業等において積極的に活用している。

8. 資料等

別紙 1 参照

1. 名称（行事名称）

AI 活用ワークショップ

2. 開催日時

2022年3月19日（土）

3. 開催場所

オンライン

4. 担当者（全員・役職名）

巳波 弘佳（関西学院大学 副学長・工学部教授）

5. 応募者・参加者数（本学WWL 拠点校・連携校）

参加校数：2校（WWL 拠点・連携校 2校）

※昨年度

6. 行事の目的

関西学院大学理工学部は、社会に研究成果を還元するために、高度な知的リソースを学内外に幅広く提供する様々な機会を設けている。本企画はその一つであり、関西学院大学の大学生・院生による研究発表、探究・課題研究などに取り組む意欲ある高校生の研究発表と、研究者も交え、研究発表を通じた交流の場を提供することを目的としている。

7. 行事の内容

2017年度から始まり、本年度で5回目の開催となる。2021年度は以下の内容で実施した。

- ・トピック講演「AI 活用 for SDGs」
- ・オリエンテーション
- ・探究（研究）活動の中間発表

13高校が39テーマの発表を実施。

8. 行事の成果

参加した高校生は、課題研究の成果を発表し、他校の高校生・大学生・大学教員等の様々な視点から質問を受けることで、課題研究の深化ならびに新たな研究課題の発見につながった。また、大学生・大学院生の高度な研究を知ることで、今後の進路等を考える機会になった。

9. 資料等

別紙 2-1～5 参照

1. 名称（行事名称）

SciTech リサーチフォーラム

2. 開催日時

2021年11月20日（土）

3. 開催場所

オンライン

4. 担当者（全員・役職名）

巳波 弘佳（関西学院大学 副学長・工学部教授）

5. 応募者・参加者数（本学WWL拠点校・連携校）

参加校数：13校（WWL拠点校・連携校4校）

※昨年度は開催中止（新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため）

6. 行事の目的

関西学院大学の大学生と、AI活用に関心を持つ高校生が、AIを活用した課題解決のアイデアや開発したアプリケーションについて情報を共有してディスカッションを行う機会とする。本学学生と高校生がチームを編成し、それぞれの得意分野や知識を活かし、チームで一つの企画をまとめていく経験を通し、総合的な学力や意欲の向上を目的とする。

7. 行事の内容

事前課題としてAIを活用して課題を解決するためのアイデアをチームで考えてまとめ、説明資料と説明動画を作成することとした。また、当日までに、他のチームの動画と資料を閲覧し、コメントや質問を準備した。ワークショップ当日は、複数のチームからなるグループに分かれ、準備してきた質問やコメントをベースにディスカッションを行った。ディスカッション終了後は、リフレクションを行い、学んだことを振り返った。

8. 行事の成果

他校の高校生・大学生とのディスカッションを通じて、自分たちだけでは気付かなかった新たな視点が得られたり、新たなアイデアに気付く場面もみられた。

9. 資料等

別紙3-1 参照

別紙3-2 参照

1. 名称（行事名称）

WWL・SGH × 探究甲子園

2. 開催日時

2022年3月19日（土）

3. 開催場所

オンライン

4. 担当者（全員・役職名）

岡田 隆（関西学院大学 入学センター 次長）

永野 誠（関西学院大学 入学センター 高大連携課長）

山田 高幹（関西学院大学 入学センター 課長補佐）

篠坂 直隆（関西学院大学 入学センター 課長補佐）

平尾 友美（関西学院大学 入学センター 職員）

中村 洸太（関西学院大学 入学センター 職員）

5. 参加者数（本学WWL拠点校・連携校）

参加校数：43校（内WWL拠点・連携校6校（応募9校））

※昨年度ご参考：参加校数：44校（内WWL拠点・連携校5校（応募10校））

6. 行事の目的

日本国内の高校において取り組まれた探究活動の成果を発表し、共有すること。具体的には、WWLコンソーシアム構築支援事業拠点校、事業共同実施校および連携校、スーパーグローバルハイスクール指定校・スーパーグローバルハイスクールアソシエイト校・スーパーサイエンスハイスクール指定校に指定された高等学校中等教育学校（いずれも過去指定されていた学校を含む）、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定校、外部組織からオフィシャルに助成を受け、正課の授業で探究活動に取り組んでいる高等学校で展開された取り組みを対象とした。

7. 行事の内容

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮し、従来の対面型ではなく、オンライン実施とした。

（応募概要）

探究活動プレゼンテーション、グループディスカッションの2つのセッションで構成し、発表者を募集した。テーマはSDGsに関連するものであり、下記項目のいずれかに該当することを応募の条件とした。なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、今年度も探究甲子園が本来重視してきた学術的な探究活動を十分に展開することができなかった高等学校が多数であったことから、学術的な探究の要素のみならず国境を超えたグローバルな交流を新たな活動対象として取り入れた。

①当該テーマに関する情報収集が行われている

②海外や国内にいる外国人との交流に取り組んでいる

対面・オンラインを問わない。グローバルな交流を通して取り組む探究活動と、そこでの学び（学習の成果）に関する発表。ただし、主たるテーマはSDGsですので、単なる交流活動ではなく、SDGsに関するものに限る。

③SDGsに関連する領域において、自分たちにできることについて考察されている

SDGsと「自分たち」の結びつきを強く意識した考察についても新たに応募可能な活動とする。複

雑で解決が容易でない SDGs に対して自分たちには何ができるのかを考察した結果を発表する。

(実施概要)

【探究活動プレゼンテーション】

各高等学校で取り組んだ SDGs に関する探究活動の計画や途中経過、明らかになったことを発表するセッション。オンライン (Zoom 等を予定) で実施し、視覚資料を使用した口頭プレゼンテーション形式で、10 分間の発表 (制限時間打ち切り) のあと 10 分間の質疑応答と大学教員による講評を行う。また、午前・午後の部ともに全 5 チームの発表終了後に発表者及び聴衆を含めた交流会 (ディスカッション) を実施する。一次審査 (書類審査) を行い、当日発表する 40 チームを選定する。なお、当日の発表についての審査は行わない。

発表言語：英語もしくは日本語

【グループディスカッション】

高等学校で取り組んだ探究活動の経験をもとに、選択したテーマに関する「主張」「根拠」「論拠」を明確にしたうえで他校の出場者と日本語でディスカッションを行うセッション。オンライン (Zoom 等を予定) で実施。内容は、アイスブレイク・自己紹介・役割決め 5 分間、ディスカッション 45 分間、ディスカッションについての議事録 (運営側作成) をもとに意見のまとめ 30 分間、プレゼンテーション 10 分間、大学教員による質疑応答と講評 5 分間で構成し、各テーマ終了後に発表者同士の交流会を約 10 分間行う。一次審査 (書類審査) を行い、当日参加する 12 名を選定する。なお、当日の審査は行わない。

<テーマ 1> グローバルな人材を育成するために必要な日本の教育改革

<テーマ 2> 石油を燃料とする車を作り続けていくべきか

使用言語：日本語

8. 行事の成果

応募高校数 81 校 (出場校数 43 校)

探究活動プレゼンテーション	応募 78 校	出場 40 校
グループディスカッション	応募 27 校	出場 11 校

<昨年度ご参考>

応募高校数 108 校 (出場校数 44 校)

探究活動プレゼンテーション	応募 85 校	出場 40 校
グループディスカッション	応募 31 校	出場 9 校

9. 資料等

ご参考：<http://tankyu-koshien.jp/>

別紙 4-1～3 参照

1. 名称（行事名称）

高校生国際交流のつどい

2. 開催日時

2021年8月4日（水）、2021年8月5日（木）

3. 開催場所

オンライン

4. 担当者（全員・役職名）

NPO 法人国際社会貢献センター（ABIC）

木本 圭一（関西学院大学 国際学部教授）

本荘 雅章（関西学院大学 研究推進社会連携機構事務局 次長）

5. 応募者・参加者数（本学WWL拠点校・連携校）

参加者数 28 名（内、WWL 拠点・連携校 3 校）

※昨年度ご参考：参加者数 45 名（内、WWL 拠点・連携校 5 校）

6. 行事の目的

「高校生国際交流の集い」は、兵庫県、大阪府の高校生と、日本の高等学校に通う留学生が、関西学院大学でディスカッションやレクリエーションを通して交流する 1泊2日のプログラム。楽しみながらお互いの文化や価値観の違いを学び合い、仲間を作ることを目的としている。

7. 行事の内容

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により宿泊を伴う内容は中止としたが、オンラインにて日本に留学中の大学生や海外在住の外国人大学生を交え、2日間でディスカッションやレクリエーションを行う代替企画を実施した。今年度のスローガンは『Distance But Not Distant ～離れていても心はひとつ～』。プログラムではグループごとのレクリエーションで交流を深めるとともに、SDGs の目標 GOAL 4（Quality Education（質の高い教育をみんなに））の中から選んだ5テーマについて、班ごとに1つ選択し、2日間かけてグループディスカッションを進めてビジネスプランにまとめ、最終日にプレゼン発表を行った。発表は、参加高等学校の教諭、ABIC の理事長、事務局長、コーディネーターらも Zoom を通じてオンラインで審査、採点、評価に参画し、閉会式では、審査結果に基づき ABIC 理事長が上位 3 グループに表彰状を授与し、関西学院大学社会連携センター長が参加者に修了証を授与した。

8. 行事の成果

ディスカッションやレクリエーションを通じて、英語によるコミュニケーション能力の向上、国際問題への理解を深めることができた。

9. 資料等

ご参考：<https://www.kwansei.ac.jp/shakairenkei/news/detail/260>

<https://www.abic.or.jp/monthly/reports/248/index.html>



1. 名称

Working Folder の活用

2. 導入日時

2020年11月4日(水) ※昨年度から継続して実施

3. 担当者(全員・役職名)

岡田 隆 (関西学院大学 入学センター 次長)

永野 誠 (関西学院大学 入学センター 高大連携課長)

篠坂 直隆 (関西学院大学 入学センター 課長補佐)

中村 洸太 (関西学院大学 入学センター 職員)

4. 導入の目的

「Working Folder」は、インターネット上でデータの送受信を行うツール。導入以前は、データのやり取りをメールリストにて行っていたが、セキュリティ面や送付できるデータ容量の面で課題があり、管理機関と拠点校・連携校間で円滑なデータの送受信ができていなかった。前述した課題解決を目的として導入し、活用した。

5. 参加校数(本学WWL拠点校・連携校)

全拠点校・連携校：26校

6. 資料等

ご参考：<https://www.fujixerox.co.jp/product/software/workingfolder>



1. 名称

関西学院世界市民明石塾

2. 開催日時

プレセッション：2021年7月31日（土） / 本セッション：2022年8月4日（水）～5日（木）

3. 開催場所

オンライン

4. 担当者（全員・役職名）

明石 康（関西学院大学 学長特別顧問（元国連事務次長））

神余 隆博（関西学院大学 国連・外交統括センター長（元駐ドイツ大使、元国連大使））

久木田 純（関西学院大学 SGU 招聘客員教授（元国連児童基金（UNICEF）駐カザフスタン代表））

マッケンジー クラグストン（関西学院大学 特別任期制教授（前駐日カナダ大使））

三輪 敦子（関西学院大学 SGU 招聘客員教授（アジア・太平洋人権情報センター所長、
SDGs 市民社会ネットワーク共同代表理事））

鳥山 直子（国連・外交統括センター事務長）

岡田 隆（関西学院大学 入学センター 次長）

永野 誠（関西学院大学 入学センター 高大連携課長）

山田 高幹（関西学院大学 入学センター 課長補佐）

篠坂 直隆（関西学院大学 入学センター 課長補佐）

中村 洸太（関西学院大学 入学センター 職員）

5. 行事の目的

塾長に元国連事務次長の明石康氏を迎え、将来グローバルリーダーとなることをめざす高校生を対象に、国際的視野と主体的な課題解決力、コミュニケーション力等を涵養するための契機とする。

6. 行事の内容

今年度で5回目の開催。「Challenges for SDGs!～地球の未来 / Future of Our Planet～」をテーマに、SDGs（持続可能な開発目標）から Goal 13：気候変動に具体的な対策を、Goal 14：海の豊かさを守ろう、Goal 15：陸の豊かさも守ろう、の3つの目標を取り上げて実施。

【プレセッション】SDGs ワークショップ

対話を通して、SDGs を自分事としてとらえ、自分がどのように関わっていくか等、SDGs を身近に考える場とすると同時に、SDGs を実現するプロセスを体感する。

【本セッション】

- ▶ 明石康塾長による基調講演：テーマ「SDGs と国連—これからの民主主義は？」

SDGs の 17 つの目標のうち、政治的、外交的問題が取り扱われているゴール 16、17 に言及。

- ▶ 明石康塾長との対話セッション

SDGs に関する質問から明石塾長の経験に関すること等活発な対話セッションとなった。

- ▶ セッション 1：テーマ「地球と私たちの未来：21 世紀のライフデザインと SDGs」

上記テーマで久木田 純教授による講義の後、坂野 晶氏（（一社）ゼロ・ウェイスト・ジャパン 代表理事）に講義いただく。人生 100 年時代に生まれた今の高校生は 21 世紀を通して生きていくことになる。地球温暖化や貧富の格差、技術革新などで大きく変化する世界、地球と私たちの未来はどうなるのか、どう生きればいいのか、どんな力が必要なのかを 2030 年までの SDGs を

手掛かりに考え議論した。

- ▶ セッション2：現役国連職員との対話セッション「気候変動と災害・人道支援」
吉田 明子氏（国連人道問題調整事務所(OCHA)神戸事務所所長）に、災害や紛争時の人道支援における OCHA の使命と活動についてご講義いただく。地球温暖化が原因のスーパー台風、海面上昇、洪水や干ばつ、農作物の凶作、食料や水不足、新たなパンデミックの発生などの地球規模のリスクにどう備え、対応すればよいのか。現役国連職員との対話セッションを通して学び考えた。
- ▶ セッション3：テーマ Environmental Action Taken in Canada - Climate Change and the Need to Build Climate-Resilient Cities（英語による講義）
マッケンジー クラグストン教授（関西学院大学 特別任期制教授（前駐日カナダ大使））に英語で講義いただく。気候変動による都市での影響や現状についての説明から始まり、これまでのカナダの環境変化や気候変動に対するバンクーバーでのアクションプラン等が紹介された。
- ▶ セッション4：日本語と英語によるディベート「産業は地球温暖化の原因か／Is industry cause of global warming？」
日本語チームおよび英語チームに分かれてディベートを実施。肯定派と否定派ともにディベートが初めてだったという参加者もいる中で具体的な論拠を交え、チームワークで議論を進めた。
- ▶ セッション5：「地球の未来に関する青年の声明」の採択作業および講師による講評
5つのグループに分かれてグループ毎に声明文案を作成。続いて全体会合で、各グループの案を一つの声明文へまとめ上げる作業を行った。本セッションは、国連や国際社会における必ずしも価値観や方向性が一致しない場において合意形成を進めるプロセスを体感することも一つの目的としている。それぞれのグループから出された案をもとに、声明文に盛り込む内容や表現・言葉選びなど細かい点にも議論が展開し、ファシリテーターの神余 隆博教授（元駐ドイツ大使）のリードのもと、講師の久木田 純教授（元 UNICEF カザフスタン事務所代表）や、三輪 敦子教授（元国連女性開発基金（現 UN Women）アジア太平洋地域事務所プログラム担当官）のコメントも交えながら、声明文を完成させた。

7. 参加校数（本学WWL 拠点校・連携校）

参加者数 31 名（内、WWL 拠点・連携校 4 校）

※昨年度は開催中止（新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため）

8. 資料等

ご参考：https://www.kwansei.ac.jp/unfa/unfa_017341.html
<https://www.kwansei.ac.jp/unfa/news/detail/107>

別紙 5-1～2